

## 福井支部 2022 年度の活動の様子

### ○手芸を愉しむ…「小物作りで脳活」○

日時:2022年6月12日(日)10:00~12:00

会場:福井県生活学習館(ユウ・アイふくい)

「手芸を愉しみ、脳の活性化を図ろう」とカルトナーズのリモコン入れ作りに、6名の会員みんなで挑戦しました。

まず、両面テープを貼ったプラスチック製の箱に、それぞれが選んだ模様の布を浮かないように丁寧に貼り合わせました。次に箱の上下にレースを貼り付けました。最後に、箱の上の四隅にリボンをボンドで貼り付けましたが、なかなかくっつかなくて苦心する場面も。

時間が足りず大変でしたが、素敵なリモコン入れができあがり、会員それぞれ満足の出来栄でした。



### ○郷土を知ろう ～教育博物館で福井の教育を学ぼう～

日時:2022年10月23日(日)10:30~12:00

会場:福井県教育総合研究所(福井県坂井市)

会員5名が坂井市「福井県教育総合研究所 教育博物館」を訪れ、1時間ほど、職員の方の説明を受けながら、特別展「学制150年記念企画展『学校150年物語』」を見学しました。明治5年(1872年)、学制が発布されてから現在に至る150年の学校教育と子ども達の姿を「近代教育のはじまり」「民主教育のはじまり」「こどもの遊び」の3つのテーマで、6つの展示室に分けて紹介していました。

最初、会場の入り口に、福井県下の小中学校の校歌が聞ける装置がありました。50年以上前の母校の小学校校歌を聞いて、その頃のことが懐かしく思い出されてきました。また、校歌の作詞が、明治後期の教育を高めた国文学者「芳賀矢一」と初めて知り、感銘を受けました。

展示室は、AからFの部屋(元は、高校の教室)に分かれていました。

#### A「教育ふくいの歴史」

……幕末から戦後にかけての教育の歴史を  
様々な資料と映像で紹介

#### B「福井ゆかりの教育者」

……福井にゆかりのある教育者を貴重な資料  
と共に紹介



- C「教科書の歴史」……明治から現代までの教科書から代表的なものを取り上げ、教育の歴史をたどる
- D「なつかしの学び舎」…昭和30年の教室再現を中心に、当時の写真や学校生活に関する思い出の品々を紹介
- E「福井の教育」……福井県の現在の教育実践から、ふるさと学習などの具体的な取り組みを紹介
- F「教科書閲覧室」……明治から現在までの教科書を収集・保管

どの展示室も見ごたえあり、特に、A では、100 年前の三国尋常高等小学校で大正自由教育が導入され、子ども達がグループに分かれ自由に生き生きと学習する姿に驚きました。

B では、幕末の志士に影響を与えた橋本佐内や、食育の石塚左玄など他にも、明治、大正の教育に多大な影響を与えた先人がいたことを改めて知りました。

その他、C や D では、戦後の墨塗り教科書を目にすることができたり、二人掛け児童机など学校生活に関する思い出の品に触れたり、貴重な体験ができました。



## ○女性のためのピアサポートサロンの開催○

日時:2022年11月13日(日)10:00~12:00  
会場:春江中コミュニティセンター

とみた早苗さん(ファイナンシャルプランナー/相続診断士)を講師に、「これからの私の終活」をテーマに、女性のためのピアサポートサロンを開催しました。(ふくい女性財団の「出かけるピアサポートサロン」事業を活用)



ずっとシングルだった人だけでなく、結婚していても平均寿命が長い女性は「おひとりさま」になる確率も高い。そこで、おひとりさまの備える4つの心得(介護、財産管理、死後整理、相続)やおひとりさまの準備についてのお聞きし、参加者それぞれが自身の抱えている困りごとなどを話し、これからの終活について考えました。

今後の生活へのヒントが色々あり、有意義な時間を過ごすことができました。

<感想より>

- ・終活は大事だと思っていましたが、知らないことが多々あり、今回それに気づくことができ、対応策が色々わかりとても助かりました。
- ・他人事と思っていたことも現実味を帯びてきました。終活という言葉は好きではありませんが、毎日を自分の置かれた境遇に合わせて、一日一日やるべきことを先延ばしにしないで生活したいと思います。

